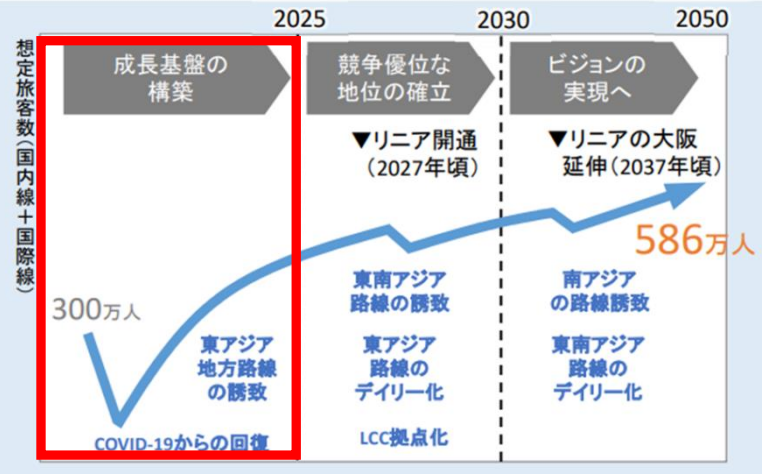
広島空港特定運営事業等

2025年度事業計画

広島国際空港株式会社

2025年度方針

事業期間終了時に向けたビジョン	**中四国の持続的成長を牽引し続ける圧倒的No.1ゲートウェイ** 広島空港を「あらゆる旅行者に最も選ばれる玄関口」へ、 中四国を「世界に選ばれる目的地」へ
中期計画（-2025年度）	✓ 30年間の将来成長を確かなものとするために、COVID-19による航空需要の一時的蒸発から速やかに立て直し ✓ 2030年頃に見込まれる関空・福岡の容量拡大、リニア開業等の外部環境の変化を勘案し、当初5年間を最重要期間として注力
2025年度方針	• ターゲットとする路線（羽田・成田、韓国、東アジア）を中心に便数拡大・大型化・搭乗率向上を実現する。 • 広島県内・山陰・瀬戸内の関係者と顔の見える関係を構築しながら、面での誘客を加速させる。 • 旅客ターミナルビルを改修、商業エリアも拡大し、快適で魅力的な空間に刷新する工事を行う。 • 実践的な訓練を継続し有事対応力を強化、各事業者の採用サポート等により空港事業の持続可能性を確保する。



■ 旅客数・貨物量目標

		2025年度
旅客数（万人）	国内線	253
	国際線	53
貨物量(千t)		8

■ 投資計画

（億円）

	2025年度	投資内容
運営権設定施設	3	消防庁舎等改修・防水工事
非運営権設定施設	29	旅客ターミナルビル改修、西側増築工事
投資合計	32	

主な取組み

航空ネットワークの拡充	• 国内線（主に羽田・成田路線）の更なる利用喚起策による便数拡大、機材大型化と搭乗率向上を図る。 • 韓国路線のダブルデイリー継続に加え、既存東アジア路線のデイリー化を実現する。 • ネットワーク拡充に不可欠なグランドハンドリング・ジェット燃料不足等の課題解消に向けてサポートを継続する。 • 貨物需要増加に対応可能な保税倉庫運営体制を整える。
旅客需要の創造	• 広島県内はもとより、山陰・瀬戸内地方の地元自治体・各種諸団体と顔の見える関係を構築しながら、面での誘客を加速させる。（とくに東アジア・首都圏） • リアル・デジタル双方での効率的かつ効果的なプロモーションを実施する。
2次交通ネットワークの構築	• 既存高速バス路線の空港経由化を実現する。 • 山陰・四国方面へのバス路線の実証実験を開始する。 • 駐車場利用における通常期の稼働率向上に加え、多客期の混雑緩和施策を推進する。 • インバウンド客（とくに東アジア・首都圏）にレンタカー利用による広域移動をPRし、航空需要に結びつける。
空港施設等の運用	• 航空需要の拡大を見据え、旅客ターミナルビルを改修、スマートレーンの整備、商業エリアも拡大し、快適で魅力的な空間に刷新する工事を行う。 • 安全・安心を最優先に工事を進めるとともに、工事期間中の不便を極小化するため、仮設店舗やDXを活用した案内を行う。 • 新設したラウンジ「YAMANAMI VILLA」をPRし、出発前の快適性と利用率の向上に努める。
安全安心な空港運営	• ターミナルビル改修工事を進めていく中で、空港全体でのCS・ES活動を推進し、満足度向上を図る。 • 空港周辺エリア施設間の連携を更に深め、にぎわい創出を図る。 • 航空機事故対応総合訓練をはじめとする実践的な訓練を継続して実施し、顔の見える関係づくりにより有事対応力の強化を図る。 • ACIカーボン認証の取得により持続可能な空港づくりを推進する。 • 空港事業者の採用をサポートする活動の継続・強化及び職場環境の改善を行う。

旅客ターミナルビル増築・改修計画

1階中央到着ロビー

3階フードコート

＊イメージ